大学における防災士資格希望者の防災意向分析

二神 透¹・羽鳥 剛史²

¹正会員 愛媛大学准教授 防災情報研究センター (〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番地)
E-mail: futagami.toru.mu@ehime-u.ac.jp

²正会員 愛媛大学准教授 社会共創学部 (〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番地)
E-mail: hatori@cee.ehime-u.ac.jp

社会の様々な分野で防災士が増え、地域の防災リーダーとしての活躍が期待されている。そこで、本研究では、防災士受講生と一般学生との間で地域防災に関わる利他的動機の程度を比較し、そうした可能性が妥当なものか否かを検討した。その結果、防災士受講生は、一般学生と比べて、地域の防災活動に関わる利他的動機が高いことが明らかになった。次に、防災士受講生と一般学生との間で利他的動機に関わる防災意識を比較したところ、規範活性化要因、リスク認知要因、他者との関係要因、興味・関心の諸項目について有意な差異が確認された。

Key Words : disaster prevention expert, factor analysis, logistic regression analysis, general college students

1. はじめに

1995年の阪神・淡路大震災を機に、大規模災害への備えと対応については行政機関に頼り切るのではなく、災害を自分ごとと考え、地域に即した自助、共助の仕組みを全国的に講じていくことが不可欠であるという考え方が浸透し始めた。また国民一人ひとりに「自分の命は自分で守る」「地域は地域の人たちで守る」「職場は職場の人たちが守る」ことを徹底させるため、正しい知識と適切な判断を兼ね備えた人材を育てることが重要である。防災士とは、社会の様々な場で減災と社会の防災力向上のための活動が期待され、そのための十分な意識・知識・技能を有した、NPO法人日本防災士機構が認定した人たちである¹⁾。自然災害を防ぐことはできないが、災害への十分な知識と災害への対応知識を備えることにより、我々の生命や財産等に対する損害を大幅に軽減させることが可能となる。そこで防災士制度が開始され、平成15年10月に防災士1号が誕生した。今後発生するといわれている、南海トラフ巨大地震、首都直下地震等による自然災害に備えて、減災と社会の防災力の向上を目標として活動する防災士の存在は日本に欠かせないものとなるだろう。東日本大震災以降、年を追うごとに防災士を養成する自治体や大学等の養成機関が増えている。全国の防災士取得者の数は、2015年12月に10万人を超えている。今後も、社会の様々な分野で防災士が増え、地域の防災リーダーとしての活躍が期待されている。愛媛県においても、防災士の数は、2016年4月現在で、

7000名を超えており、東京都、大分県に次いで全国第三位である。また、松山市においては、同年同月3000名を超え、市町単位では全国第一位である。さらに、愛媛大学でも、2015年より環境防災学を開講し、防災士の育成に向けた取り組みを行っている。このプログラムは、愛媛大学実践的學生防災リーダー育成プログラムの一環として、地域の様々な主体と連携し、学生が中心となって地域の減災・防災力の向上に貢献し、卒業後も地域の防災リーダーとして活動することを期待するものである。環境防災学は、幅広く学生が受講できるよう全学部を対象とした資格取得を目的とする共通教育発展科目として開講しているが、卒業要件の科目には含まれず、教科書(防災士教本)、資格受験料・登録料の11,000円は自己負担となる。本取り組みを通じて2015年には学生防災士が103名誕生している。今後とも、こうした取り組みを通じて、防災士の取得者を増やすとともに、地域と連携しながら防災活動を進めていくことが期待されている。

それでは、そもそも人びとはどのような動機に基づいて防災士を目指すのであろうか。防災研究分野において、防災士の役割や防災士養成の取り組みに関していくつかの研究がなされている²⁾が、防災士の取得を目指す人の動機について、少なくとも実証心理学的な観点からその要因を分析した試みは殆ど見当たらない。ただし、大学生を含め、今後、地域の中で防災士取得の潜在的な意向を持った人びとに効果的に働きかけて、防災士の取得者を増やし、地域の防災力の向上を図る上では、防災士の

取得を目指す人がどのような動機を有しているかについて実証的に検討することが重要である。

以上の問題意識の下、本研究では、大学生を対象にしたアンケート調査を通じて、防災士の取得意向についての要因分析を行う。具体的には、愛媛大学の防災士養成講座の受講者（以下、防災士受講生）とそれ以外の一般学生（以下、一般学生）を対象にして、地域防災に関わる意識を比較した。特に、本講座は卒業認定単位を認めておらず、受講生は自発的に参加しており、この点を踏まえると、受講生は防災士の取得を通じて自然災害から地域を守りたいという利他的な動機を有している可能性が考えられる。

そこで、本研究では、防災士受講生と一般学生との間で地域防災に関わる利他的動機の程度を比較し、そうした可能性が妥当なものか否かを検討した。さらに、社会心理学の知見を基にして、利他的動機と関連する意識についても両グループ間で比較検討した。こうした比較検討を通じて、大学生の防災士取得意向の要因を明らかにすることにより、大学生への防災士養成プログラムの啓発を通じて、防災士の普及を効果的に進めていくための示唆を得ることに本研究の狙いがある。

2. 調査方法

(1) 調査対象者

愛媛大学では、2015年9月の防災士養成講座（集中講義「環境防災学」）の開講にあたり、新入生へのガイダンスや通常の講義、学内掲示板等を通じて、本講座について学生に周知した。通常の科目であれば、4月の上旬に履修登録を終えるが、9月の集中講義であるため、7月末まで履修登録ができるように配慮した。

防災士受講生へのアンケートは、2015年9月25日に本講座が開講された時に、その受講生100名を対象に実施した。一般の愛媛大学生は、平成27年の10月の後期講義開講時に、担当教員の協力を頂き、工学部環境建設工学科2回生の講義受講生82名、理学部地球学科7名、教育学部10名、法文学部10名の方に回答を頂いた。図-1と図-2に、本調査における愛媛大学の防災士受講生と一般学生の有効回答者の学部別の割合を示す。防災士受講生の調査における有効回答者は100名であり、そのうち男性は72名、女性は28名、男女比は約7:3という結果になった。また回生別では1回生79名、2回生15名、3回生1名、4回生5名である。一方、一般学生の回答者は109名であり、そのうち男性は82名、女性は26名、無回答が1名、男女比は約4:1である。また回生別では1回生24名、2回生72名、3回生12名、4回生1名であった。

(2) 調査項目

図-1 防災士受講生の学部の割合

図-2 一般大学生の学部の割合

本アンケート調査の設問項目を表-1に記載する。調査票では、まず、防災士受講生に対して受講のきっかけを質問し、一般学生に対して防災士に対する認知度を質問した。次に、両グループに対して、地域防災に関わる利他的動機の程度を測るため、次の説明文を教示した。

「地域の防災活動とは、平常時における防災訓練の実施や防災資器材の準備から、災害時における初期消火や救出・救助活動に至るまで、災害から地域を守るための諸活動を指します。ただし、あなた自身がこうした防災活動に取り組むためには、日頃から相応の労力や自由な時間を懸ける必要があります。一定の個人的な負担が求められることとなります。」その上で、表-1の通り、家族、周囲の人、地域全体のそれぞれに対する利他的動機について質問した。さらに、日常の防災活動の参加度や参加意向についても質問した。

その上で、防災士取得意向と関連する要因を探索的に検討するため、社会心理学分野の協力行動や利他的行動に関わる既存研究を基にして、1) 規範活性化要因、2) リスク認知要因、3) 集団帰属要因、4) 他者との関係要因、5) 興味・関心に関する質問項目に回答してもらった。第1に、Schwartzの規範活性化理論³⁾を踏まえると、地域の防災活動に取り組むべきであるという道徳意識が防災士の取得意向を高める可能性が考えられる。さらに、既存研究の知見⁴⁾を踏まえて、道徳意識と関連する要因とし

表-1 調査項目

防災士に関する質問項目
<ul style="list-style-type: none"> ・ (防災士受講生のみ)防災士講座の受講のきっかけ/受講理由 ・ (一般学生のみ)防災士の認知度/今後の取得意向
地域防災に関わる利他的動機に関する質問項目
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「利他的動機 家族」“あなたは、災害から家族を守るため、相応の個人的な負担を厭わず、率先して地域の防災活動に取り組みたいと思いますか？” ・ 「利他的動機 周囲の人々」“あなたは、災害から身の回りの人々を守るため、相応の個人的な負担を厭わず、率先して地域の防災活動に取り組みたいと思いますか？” ・ 「利他的動機 地域」“あなたは、災害から地域を守るため、相応の個人的な負担を厭わず、率先して地域の防災活動に取り組みたいと思いますか？”(それぞれ「とてもそう思う」から「全くそう思わない」までの5件法で回答)
防災活動への参加意向や参加度に関する質問項目
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「防災活動参加意向」($\alpha=0.88$)“あなたは、地域の防災訓練に参加したいと思いますか？(防災訓練参加意向)”“あなたは、行政機関や消防署の講習会や避難訓練があるなら、参加したいと思いますか？(行政イベント参加意向)”“あなたは、自主防災組織や消防団に入りたいと思いますか？(自主防災加入意向)”(それぞれ「とてもそう思う」から「全くそう思わない」までの5件法で回答) ・ 「防災活動参加度」“あなたは、防災講習会や防災訓練に、どの程度参加していますか？”(「毎回必ず出る」から「参加しない」までの5件法で回答)
防災士取得意向の規定要因に関する質問項目
1) 規範活性化要因 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「道徳意識」“あなたは、地域の防災活動に取り組むべきだと思いますか？” ・ 「重要性認知」($\alpha=0.42$)“地域防災の問題は無視できない、と思いますか？(重要性認知1)”“普段、地域の防災について気にしていますか？(重要性認知2)” ・ 「責任感」($\alpha=0.79$)“あなたには、地域の防災活動に取り組む責任があると思いますか？(責任感1)”“私たち一人一人が地域の防災活動に取り組む責任を負っていると思いますか？(責任感2)” ・ 「対処有効性認知」($\alpha=0.50$)“あなたは、自分自身が地域の防災活動に取り組むことによって、地域の安全を高めることが出来ると思いますか？(対処有効性認知1)”“市民一人ひとりが防災対策を行えば、被害は最小限に抑えられると思いますか？(対処有効性認知2)”“自分一人が防災対策を行っても、被害を減らせないと思いますか？(対処有効性認知3)” ・ 「知覚行動制御」($\alpha=0.57$)“あなたにとって、地域の防災活動に取り組むことは、難しい事だと思いますか？(知覚行動制御_防災活動)”“地域での避難訓練や防災講習会に参加する時間をつくるのは困難だと思いますか？(知覚行動制御_避難訓練)”“地域における災害時危険箇所を調べるのは、正直面倒だと思いますか？(知覚行動制御_リスク点検)”
2) リスク認知要因 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「リスク認知」($\alpha=0.20$)“自然災害は恐ろしいと思いますか？(リスク認知_恐ろしさ)”“お住まいの地域では自然災害の危険性があると思いますか？(リスク認知_未知性)” ・ 「問題回避困難性」“あなたは、自然災害の問題と向き合わなければならないと思いますか？”
3) 集団帰属要因 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「帰属意識」[*]($\alpha=0.74$)“あなたは、まちの一員であることを誇らしく感じますか？(帰属意識1)”“あなたは、まちとの結び付きを強く感じますか？(帰属意識2)” ・ 「地域愛着」[*]“あなたは、まちに愛着を感じますか？” ・ 「組織コミットメント」“あなたは、まちにずっと住み続けたいと思いますか？”
4) 他者との関係要因 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「周囲の評価」($\alpha=0.67$)“あなたの周りの人達は、あなたが地域の防災活動に取り組むことに肯定的ですか？(周囲の評価_周囲の人々)”“親せきや家族が地域の防災活動に取り組んでいるのに、自分自身がなにも備えていなければ、心苦しく思いますか？(周囲の評価_家族・親戚)”“あなたが地域の防災活動に取り組んでいると、親しい友人はあなたに好印象を持つと思いますか？(周囲の評価_友人)”“近所の人が地域の防災活動に取り組んでいるのに、自分だけしないのは気が引けますか？(周囲の評価_近所)” ・ 「共感」[*]“あなたは、まちに住んでいる他の人々と、喜びや苦難を共感することがありますか？” ・ 「共通運命感」“あなたは、まちに住んでいる他の人々と、生活の浮き沈み等の苦楽を共にしていると思いますか？”
5) 興味・関心 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「興味・関心」($\alpha=0.71$)“行政が行っている防災対策の内容について興味がありますか？(興味・関心_防災行政)”“新聞やテレビで防災に関するニュースがあると興味を持って見ることが多いですか？(興味・関心_メディア)”“新聞やテレビで防災に関するニュースがあると興味を持って見るが多いですか？(興味・関心_防災予算)” <p>(※の項目以外については、それぞれ「とてもそう思う」から「全くそう思わない」までの5件法で回答。「帰属意識」と「地域愛着」については、それぞれ「非常に感じる」から「全く感じない」、共感については「非常にある」から「全く無い」までの5件法で回答。)</p>

て、地域防災の**重要性認知**や自らの責任感、自分の行動が地域防災に有効であるとの認知(**対処有効性認知**)、その行動を実行することが容易であるとの認知(**知覚行動制御**)について、それぞれ質問項目を設定した。第2に、防災士の取得を目指す人において、自然災害に対するリスクを強く感じている可能性がある⁹⁾。ここで、リ

スク認知は、不確実な事象に対する“恐ろしさ”と“未知性”の2要因から構成されることが明らかにされており⁶⁾、それぞれについて質問項目を設定した。また、リスク認知と関連する要因として、自然災害の問題から逃れ難いと認知する程、その問題解決に向けて主体的に取り組むと考えられ、自然災害に関わる**問題回避困難性**⁷⁾

図-3 防災士養成講座の受講のきっかけ

図-4 一般大学生の防災士の認知度

図-5 一般大学生の防災士取得意向

の認知について質問項目を設定した。第3に、社会的アイデンティティ理論⁹⁾では、所属集団への帰属意識が強い人ほど、集団全体の利益に貢献するような集合行為やボランティア活動を行う傾向が高いと考えられている。また、地域に対する愛着⁹⁾や組織へのコミットメント¹⁰⁾が強い人ほど、当該地域や組織に貢献しようとする動機が高いことが指摘されている。防災士は、地域防災の向上に資するものである以上、受講生において、地域に対する帰属意識や愛着意識が高い可能性が考えられ、これらの質問項目を設定した。第4に、社会的ネットワーク理論¹¹⁾では、地域における紐帯や社会的ネットワークの存在が、集合行為や協力行動の主要な規定要因であると

表-3 防災士受講生と一般学生間の利他的動機の比較

	防災士受講生		一般学生		平均値の差	t 値
	M	SD	M	SD		
利他的動機 家族	3.93	.83	3.47	.98	-0.46	-3.55 ***
利他的動機 周囲の人々	3.84	.78	3.11	.98	-0.73	-5.92 ***
利他的動機 地域	3.81	.81	2.97	.95	-0.84	-6.63 ***
防災活動参加意向	3.48	.91	2.60	.94	-0.88	-7.60 ***
防災活動参加度	2.23	1.07	1.81	.86	-0.42	-3.08 ***

*: $p < .10$ **: $p < .05$ ***: $p < .01$

考えられている。この理論によれば、周囲からの評価¹²⁾が高い程、他者との共感や共通運命感⁷⁾を抱いている程、防災士を取得する傾向に高いと考えられ、これらの質問項目を設定した。最後に、既存研究¹³⁾を踏まえて、地域防災に関わる興味・関心についても質問した。

以上の地域防災意識について、その回答結果から「とても思う」を「5」、「全くそう思わない」を「1」とする5段階の尺度を構成した（他の回答項目の場合も同様に5段階の尺度を構成した）。ただし、「知覚行動制御」については、逆転項目であるため、「とても思う」を「1」、「全くそう思わない」を「5」として尺度を構成した。また、複数の質問項目を設定している場合、信頼性分析により信頼度係数（ α 値）を算定し、通常の基準（ α 値が0.7以上）を満足した場合、各項目の加算平均から1つの尺度を構成した。表-1には、それぞれの α 値を記載している。この表に示す通り、重要性認知、リスク認知、知覚行動制御、対処有効性認知、周囲の評価については、信頼度係数が低いため、それぞれ個別の質問項目を用いることとした。

3. 防災士の取得意向の要因分析

(1) 防災士受講生の受講理由と一般学生の認知度

防災士養成講座の受講のきっかけをアンケートで尋ねると、図-3に示すように、「ガイダンスで存在を知った」「先生に言われた」「学内の掲示板で知った」「友人に誘われた」等、様々なきっかけから受講していることが分かる。一方、比較対象とする一般学生にアンケートを採ったところ、図-4に示すように、「防災士を知っている」と回答した学生が全体の14%に過ぎず、半数以上の学生が「知らない」と答えている。図-5に示すように、一般学生に防災士の取得意向を聞いたところ、「取るつもりはない」が46%であった反面、「取りたい」「機会があれば取りたい」と回答した学生も全体の24%となり、一定程度の学生が防災士の取得に関心を持っていることが分かった。

(2) 防災士受講生と一般学生の利他的動機の比較

防災士受講生と一般学生の利他的動機及び日常の地域防災活動の参加度や参加意向に関する回答結果の平均と標準偏差を表-3に示す。表中、各項目の平均値の差の検

表-4 防災士取得意向の規定要因の比較

	防災士受講生		一般学生		平均値 の差	t値
	M	SD	M	SD		
【規範活性化要因】						
道徳意識	3.96	.65	3.61	.78	-0.34	-3.40 ***
重要性認知1	4.18	.69	3.83	.87	-0.35	-3.17 ***
重要性認知2	3.24	1.10	2.85	.94	-0.39	-2.70 ***
責任感	3.61	.78	3.43	.84	-0.19	-1.63
対処有効性認知1	3.52	.80	3.35	.95	-0.17	-1.38
対処有効性認知2	4.16	.77	3.61	.90	-0.55	-4.73 ***
対処有効性認知3	2.96	1.14	2.94	1.12	-0.02	-0.14
知覚行動制御_防災活動	1.90	.84	1.93	.98	0.02	0.17
知覚行動制御_避難訓練	2.06	.89	1.74	.90	-0.32	-2.56 **
知覚行動制御_リスク点検	1.91	.90	1.48	1.00	-0.44	-3.29 ***
【リスク認知要因】						
リスク認知_恐ろしさ	4.78	.49	4.56	.79	-0.22	-2.39 **
リスク認知_未知性	3.77	1.07	3.55	1.08	-0.22	-1.43
問題回避困難性	4.29	.67	3.93	.82	-0.36	-3.45 ***
【集団帰属要因】						
帰属意識	3.37	.94	3.13	.94	-0.24	-1.85 *
地域愛着	3.81	1.01	3.60	1.16	-0.21	-1.39
組織コミットメント	3.47	1.04	3.33	1.14	-0.14	-0.90
【他者との関係要因】						
周囲の評価_周囲の人々	3.78	.82	3.13	.68	-0.65	-6.07 ***
周囲の評価_家族・親戚	3.63	.88	3.39	.93	-0.24	-1.90 *
周囲の評価_友人	3.28	.85	3.31	.87	0.04	0.29
周囲の評価_近所	3.64	.87	3.37	.98	-0.27	-2.10 **
共感	2.76	.97	2.69	1.05	-0.08	-0.55
共通運命感	2.66	.93	2.60	1.01	-0.06	-0.46
【興味・関心】						
興味関心	3.44	.85	3.17	.78	-0.27	-2.36 **

*: $p<.10$ **: $p<.05$ ***: $p<.01$

定結果を記載している。まず、利他的動機に関して、全ての項目で有意差が見られ、防災士受講生は一般の学生に比べて地域防災に関わる利他的動機が高いことが示された。この結果より、防災士受講生は、地域防災に自らが尽力することによって、家族や周囲の人々、地域全体に貢献したいという利他的な動機に基づいて本講座を受講している可能性が考えられる。また、防災活動参加意向や参加度についても、両グループ間で有意な差異が確認された。この結果より、防災活動に積極的に関与する傾向が高い学生が、防災士資格取得講座に参加していることが分かった。

(3) 防災士の取得意向に関わる要因分析

表-1に示した防災士取得意向の各規定要因について、防災士受講生と一般学生の回答結果を比較した。その結果を表-4に示す。この表に示すように、規範活性化要因では、「道德意識」「重要性認知」「対処有効性認知」「知覚行動制御」に関して防災士受講生と一般学生との間で有意な差異が確認された。この結果より、防災士受講生が一般学生に比べて防災活動に関わる規範意識が高いものと考えられる。また、防災士受講生は、市民の防災対策による減災効果を認知すると共に、避難訓練やリスク点検等の防災対策を自らも実行可能なものと捉える傾向が比較的高いことも、以上の結果より示されている。次に、リスク認知要因に関して、「リスク認知_恐ろしさ」「問題回避困難性」について両グループ間で有意な差異が確認された。この結果より、防災士受講生は、自然災害の恐ろしさを認知する一方で、その問題に向き合う必要を感じていることが分かる。集団帰属要因については、両グループ間で5%水準で有意な差異は認められな

表-5 ロジスティック回帰分析(変数増加法の検定結果)

独立変数	回帰係数	オッズ比	有意確率
重要性認知2	0.43	1.53	0.03
リスク認知_恐ろしさ	0.73	2.08	0.04
対処有効性認知_防災対策	0.74	2.10	0.00
周囲の評価_周囲の人々	0.85	2.33	0.00
興味関心	0.62	1.86	0.01

かった。こうした結果が得られた理由の1つとして、本アンケート調査の回答者が大学生であったことから、地域に関わる意識やその影響が低かった可能性が考えられる。集団帰属要因については、今後、一般の社会人を対象とした調査を実施し、更なる検討が必要である。他者との関係要因に関して、「周囲の評価」の3項目について両グループ間で有意な差異が確認された。この結果より、防災士受講生において、一般学生に比べて、家族・親戚や身の回りの人々が防災活動に取り組むことを好意的に評価する傾向が高いことが分かる。最後に、「興味・関心」についても両グループ間で有意な差異が確認され、防災士受講生は、防災活動に対する興味・関心が強い傾向にあると考えられる。

次に、防災士取得意向に直接的に関連する要因を抽出するため、防災士受講生を1、一般学生を0とするダミー変数を作成し、これを目的変数として、防災士取得意向の各規定要因を説明変数とするロジスティック回帰分析を行った。説明変数の選択は、5%の有意水準を想定した尤度比によるステップワイズ変数増加法により行った。その分析結果を表-5に示す。表中、オッズ比とは、ある事象の起こりやすさを2つの群で比較して示す統計学的な尺度である。この表に示すように、防災士取得意向の規定要因として、「重要性認知2」「リスク認知_恐ろしさ」「対処有効性認知_防災対策」「周囲の評価_周囲の人々」「興味関心」が抽出された。これらの意識が防災士取得意向と直接的に関連する要因を構成するものと考えられる。

4. おわりに

本研究では、愛媛大学の防災士受講生と一般学生を対象として、防災意識に関する心理学的アプローチに基づいてアンケート調査を実施した。その結果、防災士受講生は、一般学生と比べて、地域の防災活動に関わる利他的動機が高いことが明らかになった。本研究の結果に示される様に、防災士受講生が、家族、周囲の人々、地域全体への利他的な動機に基づいて防災士養成講座に参加している以上、彼らの継続的な受講を促す意味でも、受講生の利他的動機に配慮しながら、その意識の維持・促進を目指す形で、講義内容の組み立てや、その後の愛媛大学実践の学生リーダー育成プログラムを構成すること

が肝要であろう。より具体的には、本プログラムを通じて、万一災害が起きた場合にも、家族や周囲の人々を助けることに寄与できる判断や行動を教示することが求められる。

次に、防災士受講生と一般学生との間で利他的動機に関わる防災意識を比較したところ、規範活性化要因、リスク認知要因、他者との関係要因、興味・関心の諸項目について有意な差異が確認された。さらに、ロジスティック回帰分析の結果から、防災士取得意向と直接関連する要因として、「重要性認知」「リスク認知」「恐れしさ」「対処有効性認知」「防災対策」「周囲の評価」「周囲の人々」「興味関心」が抽出された。この結果より、大学生に向けて防災士養成講座の受講をより効果的に呼びかける上では、これらの要因に配慮することが重要であると言える。具体的には、重要性認知やリスク認知等の結果を踏まえると、地域防災の重要性や自然災害の恐れしさについての適切な理解を促すことが重要である。さらに、対処有効性認知については、大学生でも防災活動に取り組むことにより地域の防災に寄与できることを伝えることが重要であろう。さらに、周囲の評価に関して、大学生は周囲の人々の意見を踏まえて防災士の取得を検討する傾向が示されており、この結果から、学生間の口コミや講義中の紹介等を効果的に進めることによって、学生の防災士取得意向が増進するものと考えられる。今後は、本研究の結果を踏まえつつ、そうした効果的な情報発信や周知の方法について具体的に検討する必要がある。従って、次年度以降のカリキュラムに反映するとともに、現在行っているフォローアップ研修においても、得られた知見を反映したいと考えている。また、本研究では、大学生の防災士取得意向の要因を検討したが、一般市民の防災士取得意向やその動機を明らかにすることも重要な課題である。併せて、防災士養成講座の効果的なプログラムを検討する上では、今後、今回の養成講座を通じて受講者の防災意識がどのように変化するかを検証することも重要である。

- 1) 特定非営利活動法人 日本防災士機構
〈<http://bousaisi.jp/>〉
- 2) 山本晴彦, 勝見武, 松村伸二, 高野伸栄, 堤大三: 防災士養成の現状と今後の課題, 自然災害科学 JJSNDS 26-3, pp.233-265, 2007.
- 3) Schwartz, S.H.: Normative influences on altruism, In L. Berkowitz (Ed.) *Advances in experimental psychology*, Vol. 10. New York: Academic Press, pp.222-280, 1977.
- 4) 藤井聡: 社会的ジレンマの処方箋: 都市・交通・環境問題の心理学, ナカニシヤ出版, 2003.
- 5) 広瀬幸雄: 環境配慮的行動の規定因について, 社会心理学研究, Vol.10, No.1, pp.44-55, 1994.
- 6) Slovic, P.: Perception of risk, *Science*, Vol.236, pp.280-285, 1987.
- 7) Aronson, E.: *The Social Animal*, (6th Ed.), San Francisco: W.H. Freeman and Company, 1992.
- 8) Tajfel H.: *Differentiation Between Social Groups: Studies in the Social Psychology of Intergroup Relations*, London: Academic Press, 1981.
- 9) 加藤潤三・池内裕美・野波寛: 地域焦点型目標意図と問題焦点型目標意図が環境配慮行動に及ぼす影響: 地域環境としての河川に対する意思決定過程, 社会心理学研究, Vol.20, No.2, pp.134-143, 2004.
- 10) 高橋弘司: 組織コミットメント尺度の項目特性とその応用可能性—3次元組織コミットメント尺度を用いて—, 経営行動科学, Vol.11, No.2, pp.123-135, 1997.
- 11) Granovetter, M.: The strength of weak ties, *American Journal of Sociology*, Vol.78, No.6, pp.1360-1380, 1973.
- 12) Clary, E.G., Snyder, M., Ridge, R.D., Copeland, J., Stukas, A.A., Haugen, J., & Miene, P.: Understanding and assessing the motivations of volunteers: A functional approach, *Journal of Personality and Psychology*, Vol.74, No.6, pp.1516-1530, 1998.
- 13) 元吉忠寛・高尾堅司・池田三郎: 地域防災活動への参加意図を規定する要因—水害被災地域における検討—, 心理学研究, Vol.75, No.1, pp.72-77, 2004.

参考文献

(2016. 7. 8 受付)

ANALYSIS OF DISASTER PREVENTION CONSCIOUSNESS OF PEOPLE TO TAKE A QUALIFICATION OF DISASTER PREVENTION EXPERT

Toru FUTAGAMI, Tsuyoshi HATORI

Disaster prevention expert has increased in various fields of the society, working as a disaster prevention leader of the region are expected. In disaster prevention expert research field, some of the studies have been made with respect to disaster prevention expert of the role and training efforts, it has not been sufficiently studied motivation of people who aim to acquire the disaster prevention expert. Therefore, we, using a questionnaire, along with performing a comparative analysis of the determinants, and to clarify the factors that influence by logistic regression analysis.